

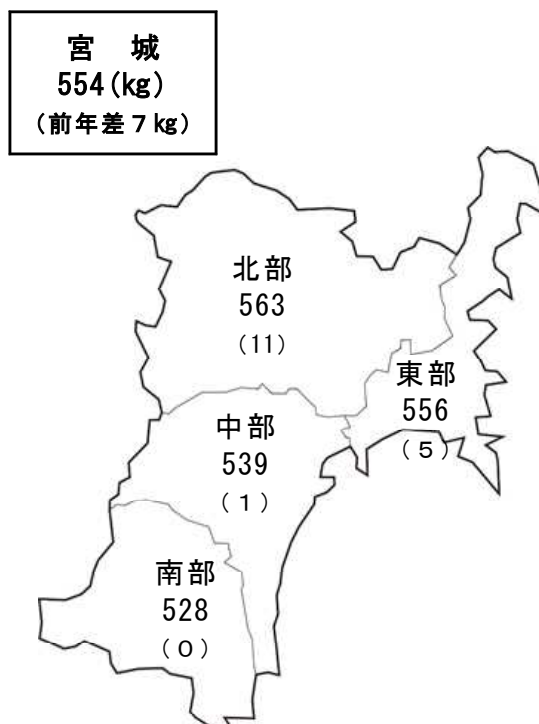
平成28年産水稻の収穫量（宮城）

— 水稻の10a 当たり収量は554kg（前年産に比べ7kg増加）
— 収穫量（子実用）は36万9,000 t

1 作付面積

平成28年産水稻の作付面積（子実用）は6万6,600haで、前年産に比べ100haの減少となった。このうち、主食用作付面積は6万3,600haで、前年産に比べ100haの減少となった。

作柄表示地帯別10a 当たり収量



2 作柄概況

水稻10a 当たり収量は、全もみ数（穂数×1穂当たりもみ数）が「やや多い」となり、登熟（開花、受精から成熟期までの子実の肥大、充実）は、全もみ数がやや多かったものの、出穂期の気温・日照時間が平年を上回って経過し、9月中旬以降も気温が平年を上回ったことにより「平年並み」で、554kgとなった。

3 収穫量

以上の結果、収穫量（子実用）は36万9,000 tで、前年産に比べ4,200 tの増加となった。このうち、主食用の収穫量は35万2,300 tで、前年産に比べ3,900 tの増加となった。

4 被害概況

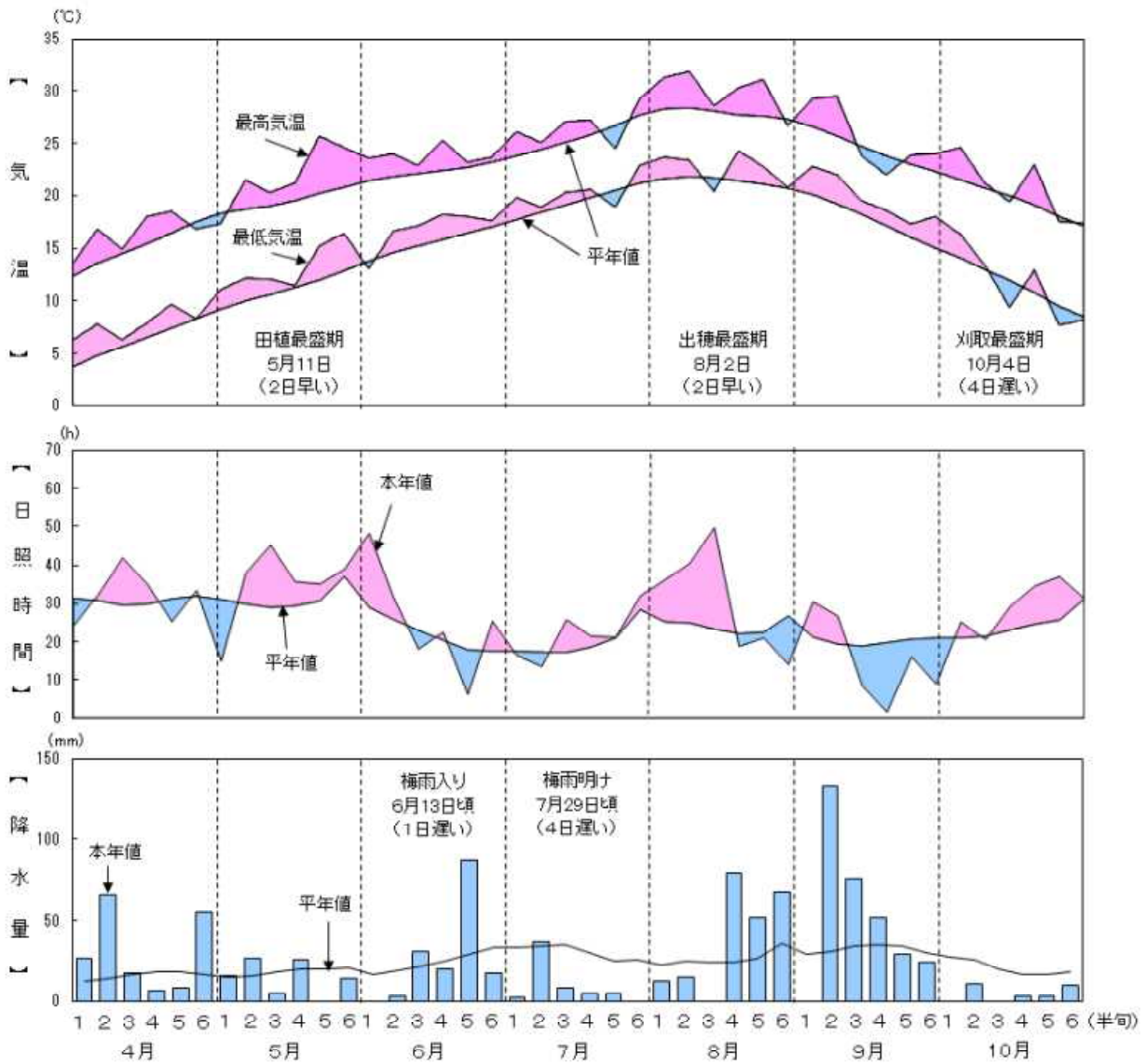
被害量は2万700 tとなった。

被害種類別にみると、気象被害が1万6,300 t（被害総量に占める割合79%）、病害が2,810 t（同14%）、虫害が705 t（同3%）となった。

- 作付面積（子実用）とは、青刈り面積（飼料用米等を含む。）を除いた面積である。
- 主食用作付面積とは、水稻作付面積（青刈り面積を含む。）から、生産数量目標の外数として取り扱う米穀等（備蓄米、加工用米、新規需要米等）の作付面積を除いた面積である。
- 10a 当たり収量及び収穫量は、1.70mmのふるい目幅で選別された玄米の重量である。

【参 考】

平成28年半旬別気象図(仙台)



資料：気象庁ホームページより

注：1 田植期、出穂期及び刈取期の最盛期は、県平均の期日である。

2 () 内の日数の遅速は、対平年差である。

お問合せ先

東北農政局 統計部 統計調査チーム

電話：022-236-6826 内線168

FAX：022-236-6747